

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年9月13日

【四半期会計期間】 第12期第1四半期(自平成25年5月1日至平成25年7月31日)

【会社名】 株式会社ビューティガレッジ

【英訳名】 BEAUTY GARAGE Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役CEO 野村 秀輝

【本店の所在の場所】 東京都世田谷区桜新町一丁目34番25号

【電話番号】 03 - 5752 - 3897

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営管理グループ統括責任者 伊藤 雅之

【最寄りの連絡場所】 東京都世田谷区桜新町一丁目34番25号

【電話番号】 03 - 5752 - 3897

【事務連絡者氏名】 執行役員 経営管理グループ統括責任者 伊藤 雅之

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次 会計期間	第12期 第1四半期 連結累計期間		第11期	
	自 至	平成25年5月1日 平成25年7月31日	自 至	平成24年5月1日 平成25年4月30日
売上高 (百万円)		1,529		5,288
経常利益 (百万円)		17		333
四半期(当期)純利益 (百万円)		16		190
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)		16		190
純資産額 (百万円)		1,109		1,116
総資産額 (百万円)		2,055		2,083
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)		13.76		176.26
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)		13.66		173.74
自己資本比率 (%)		54.0		53.6

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 平成24年10月2日付で1株につき200株の株式分割を行いました。第11期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しております。
4. 当社は、第11期第1四半期連結累計期間においては四半期連結財務諸表を作成していないため、第11期第1四半期連結累計期間に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）が営んでいる事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

（その他周辺ソリューション事業）

前連結会計年度末において当社の連結子会社であった株式会社ムサシを平成25年5月1日付で当社に吸収合併しております。また、平成25年5月1日付けで、新規設立により株式会社サロンキャリア（連結子会社）を連結の範囲に含めております。

この結果、平成25年7月31日現在では、当社グループは、当社、子会社2社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

該当事項はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、前第1四半期連結累計期間においては四半期連結財務諸表を作成していないため、前年同四半期との比較分析は行っていません。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権発足以降、政府主導の経済・金融政策の影響とその期待感から、円安・株高が進む展開となり、輸出関連企業を中心とした企業マインドの好転により、一部で景気回復の兆しが見え始め、全体としては、穏やかな景気持ち直し基調で推移いたしました。

一方、当社グループが事業を展開する美容サロン業界におきましては依然として消費者マインドの冷え込みから厳しい経済環境が続いており、経済的な商材の仕入ルートの確保や効果的な集客方法を検討・実施する傾向にあります。

そのような状況下、当社グループでは、平成25年6月にプロ向け美容商材ショールームとしては日本最大級の「東京本社総合ショールーム」を開設し展示品数の充実を図るとともに、商品をその場でご購入いただける「BGストア」や開業と経営の情報ステーション「BGラウンジ」を併設いたしました。

また、最大の販路であるプロ向け美容商材インターネット通販サイト「BEAUTY GARAGE Online Shop」の徹底した利便性向上に注力したことで、新規顧客の開拓と既存顧客のリピート率向上を実現して参りました。

さらには、平成25年5月には美容業界初の完全成果報酬型求人サイト「salon career」を運営する連結子会社株式会社サロンキャリアを設立し、周辺ソリューション事業のサービス強化を図りました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におきましては、売上高は1,529,899千円と堅調に推移しました。

利益面におきましては、円安に伴う原価率の上昇に加え、「東京本社総合ショールーム」の開設及び本社移転に伴う諸費用の発生、株式会社サロンキャリアの子会社設立による各種費用の増加などにより、営業利益24,932千円、経常利益17,874千円、四半期純利益16,265千円となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

物販事業

物販事業においては、インターネット通販サイト「BEAUTY GARAGE Online Shop」、全国主要都市10ヶ所のショールーム、カタログ通販誌「BG STYLE」を通してプロ向け美容商材をビューティサロンに提供しております。

登録会員事業主数については、新規登録数が月に約3,000事業者のペースで堅調に伸長し当第1四半期連結会計期間末時点の累計登録会員事業主数は177,338事業者となりました。

また、オリジナルブランド商品を中心として商品ラインナップの更なる拡充を図り、取扱アイテム数は40万を超えました。

この結果、当事業の売上高は1,175,122千円、セグメント利益は73,458千円となっております。

店舗設計事業

店舗設計事業においては、連結子会社である株式会社タフデザインプロダクトにより店舗設計・工事施工監理を提供しております。

当社グループの総合力を活かし、従来受注案件の多くを占めていた小型・個店案件に加えて、チェーン店舗を展開するチェーン本部からの案件が増加いたしました。

この結果、当事業の売上高は295,019千円、セグメント利益は10,395千円となっております。

その他周辺ソリューション事業

その他周辺ソリューション事業においては、ビューティサロンの開業と経営に必要な不動産物件仲介サービスや集客支援サービス、e-ラーニングサービス等の各種ソリューションサービスを、各専門インターネットサイトと全国主要都市10ヶ所のショールームを通して提供しております。

また、さらなるサービスラインナップの充実を目的として、平成25年5月には美容業界初の完全成果報酬型求人サイト「salon career」の運用を目的に連結子会社株式会社サロンキャリアを設立し、人材支援サービスの強化を図りました。当社の17万を超える登録会員事業主を基盤とした積極的な営業活動により、サービス開始から3ヶ月の当第1四半期連結会計期間末時点で求人票が4,000件を超えました。

この結果、当事業の売上高は59,757千円、セグメント損失は7,409千円となっております。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べて3.3%減少し、1,814,544千円となりました。これは、主に商品の増加73,961千円があったものの、受取手形及び売掛金の減少63,552千円及び現金及び預金の減少27,007千円があったことによるものであります。

(固定資産)

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べて16.3%増加し、240,790千円となりました。これは、主に有形固定資産の増加41,640千円によるものであります。

(流動負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べて10.8%減少し、776,275千円となりました。これは、主に未払法人税等の減少78,834千円及び買掛金の減少35,600千円によるものであります。

(固定負債)

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末に比べて76.2%増加し、169,735千円となりました。これは、主に長期借入金の増加58,120千円によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて0.7%減少し、1,109,324千円となりました。これは、主に当四半期純利益の計上に伴い利益剰余金の増加16,265千円があったものの、配当金の支払に伴い利益剰余金の減少23,640千円があったことによるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 生産、受注及び販売の実績

生産実績

当第1四半期連結累計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)
店舗設計事業	260,930

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 金額は製造原価によっております。

仕入実績

当第1四半期連結累計期間における仕入実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	仕入高(千円)
物販事業	826,273
その他周辺ソリューション事業	24,646
合計	850,919

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 金額は仕入価格によっております。

受注実績

当第1四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	受注残高(千円)
店舗設計事業	249,209	93,919

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

販売実績

当第1四半期連結累計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	
	区分	
物販事業		1,175,122
	理美容機器	904,391
	化粧品等	270,731
店舗設計事業		295,019
その他周辺ソリューション事業		59,757
合計		1,529,899

- (注) 1. セグメント間取引については、相殺消去しております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,232,000
計	4,232,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年7月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年9月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,182,000	1,182,000	東京証券取引所 (マザーズ)	単元株式数は100株 であります。
計	1,182,000	1,182,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年7月31日		1,182,000		262,320		213,587

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年7月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 1,181,800	11,818	単元株式数は100株であります。権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。
単元未満株式	普通株式 200		
発行済株式総数	1,182,000		
総株主の議決権		11,818	

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

なお、前第1四半期連結累計期間(平成24年5月1日から平成24年7月31日まで)においては四半期連結財務諸表を作成していないため、四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書に係る比較情報は記載しておりません。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成25年5月1日から平成25年7月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年5月1日から平成25年7月31日まで)の四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年7月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	562,029	535,022
受取手形及び売掛金	392,458	328,905
商品	678,618	752,579
仕掛品	12,240	14,632
その他	240,750	191,642
貸倒引当金	9,522	8,238
流動資産合計	1,876,575	1,814,544
固定資産		
有形固定資産	39,722	81,362
無形固定資産		
のれん	2,648	2,118
ソフトウェア	34,071	32,336
その他	116	116
無形固定資産合計	36,836	34,571
投資その他の資産	130,536	124,856
固定資産合計	207,095	240,790
資産合計	2,083,670	2,055,335
負債の部		
流動負債		
買掛金	339,321	303,721
1年内返済予定の長期借入金	61,720	83,520
1年内償還予定の社債	10,000	10,000
未払法人税等	87,178	8,343
賞与引当金	20,675	49,073
製品保証引当金	10,630	15,524
受注損失引当金	21	626
資産除去債務	4,969	-
その他	336,125	305,467
流動負債合計	870,642	776,275
固定負債		
長期借入金	50,560	108,680
ポイント引当金	23,839	24,864
資産除去債務	9,673	23,805
その他	12,256	12,385
固定負債合計	96,329	169,735
負債合計	966,971	946,010

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年7月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	262,320	262,320
資本剰余金	213,587	213,587
利益剰余金	640,792	633,417
株主資本合計	1,116,699	1,109,324
純資産合計	1,116,699	1,109,324
負債純資産合計	2,083,670	2,055,335

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年7月31日)
売上高	1,529,899
売上原価	1,011,277
売上総利益	518,622
販売費及び一般管理費	493,689
営業利益	24,932
営業外収益	
受取利息及び配当金	8
受取手数料	115
その他	390
営業外収益合計	515
営業外費用	
支払利息	347
為替差損	6,846
その他	380
営業外費用合計	7,573
経常利益	17,874
特別損失	
本社移転費用	4,300
特別損失合計	4,300
税金等調整前四半期純利益	13,573
法人税、住民税及び事業税	7,451
法人税等調整額	10,143
法人税等合計	2,691
少数株主損益調整前四半期純利益	16,265
四半期純利益	16,265

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年7月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	16,265
四半期包括利益	16,265
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	16,265

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成25年7月31日)
(連結の範囲の重要な変更) 前連結会計年度末において当社の連結子会社であった株式会社ムサシは、平成25年5月1日付で、当社を存続会社とし、株式会社ムサシを消滅会社とする吸収合併を行ったことにより、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。 また、平成25年5月1日付で、株式会社サロンキャリアを新たに設立したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

	前連結会計年度 (平成25年4月30日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年7月31日)
投資その他の資産	1,540千円	千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	当第1四半期連結累計期間 (自 平成25年5月1日 至 平成25年7月31日)
減価償却費	10,289千円
のれんの償却額	529 "

(株主資本等関係)

当第1四半期連結累計期間(自 平成25年5月1日 至 平成25年7月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年7月26日 定時株主総会	普通株式	23,640	20.00	平成25年4月30日	平成25年7月29日	利益剰余金

2 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第1四半期連結累計期間(自平成25年5月1日至平成25年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	物販事業	店舗設計事業	その他周辺ソ リユーション 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,175,122	295,019	59,757	1,529,899		1,529,899
セグメント間の内部売上高 又は振替高	7,144	28,688	680	36,514	36,514	
計	1,182,267	323,708	60,438	1,566,413	36,514	1,529,899
セグメント利益又は損失()	73,458	10,395	7,409	76,444	51,511	24,932

(注)1. セグメント利益又は損失()の調整額 51,511千円には、セグメント間取引消去4,230千円、未実現利益の調整額 457千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 55,285千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年5月1日 至平成25年7月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	13.76 円
(算定上の基礎)	
四半期純利益金額(千円)	16,265
普通株主に帰属しない金額(千円)	
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	16,265
普通株式の期中平均株式数(株)	1,182,000
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	13.66 円
(算定上の基礎)	
四半期純利益調整額(千円)	
普通株式増加数(株)	9,129
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年9月12日

株式会社 ビューティガレッジ
取締役 会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 片岡 久 依

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 淡島 國 和

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ビューティガレッジの平成25年5月1日から平成26年4月30日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成25年5月1日から平成25年7月31日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成25年5月1日から平成25年7月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ビューティガレッジ及び連結子会社の平成25年7月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以 上

- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。